

明治・大正・昭和初期刊行の山口県全図

河村克典

一、はじめに

明治四年七月の廃藩置県によつて、山口・岩国・豊浦・清末の四県が誕生し、その後、同年十一月十五日に四県が統廃合されて現在の山口県が設置された。^①山口県の県域に当たる周防、長門兩國を描いた図に関する研究は、これまでに、近世においては国絵図、防長兩國国絵図、伊能大図^②などの成果は見られるものの、近代以降における山口県全図に関しては、事例研究も行われていない。

本稿では、山口県が成立した明治四年から第二次世界大戦終戦までに刊行された山口県全図を整理し、これらの特徴を明らかにしてみたい。研究対象の地図は、山口県文書館所蔵のものとする。^③

二、明治前期

山口県全図の事例を、山口県著作と出版社等著作に分けて整理すると、第1表のようになる。まず最初に、明治十七年と明治二十五年に、伊能図を基に山口県全図が作成されている。伊能図は、全国的に明治以後もしばらくは利用された。明治十七年の地図（第1図）は山口県全体だけを描いたものであるが、明治二十五年の地図（第2図）は山口県全体の他に市街図を付けている。萩市街、赤間関市街、長府市街、宮市及三田尻市街、山口市街、徳山市街、柳

第1表 山口県全図の事例

1. 山口県著作	※発行年の()は推定年代				
題目	発行年	型	寸法 cm	縮尺	請求番号
山口県全図	明治17年	A	106×152	1:108,000	毛利家文庫絵図258, 明城793 一般郷土193, 軸物追加14
山口県全図	明治25年	B	78.0×105.5	1:180,000	軸物追加15
山口県地図	明治41年	C①	75.0×102.5	1:180,000	軸物追加16
山口県地図	(明治38~44年)	C①	破損	1:180,000	軸物追加18
山口県地図	(明治44~45年)	C②	76.8×108.0	1:180,000	地図明治44-34
山口県地図	(明治44~45年)	C②	75.5×101.0	1:180,000	軸物追加17
山口県地図	(明治44~45年)	C②	77.4×104.8	1:180,000	軸物追加19
山口県地図	(明治44~45年)	C②	78.8×106.4	1:180,000	行幸啓3
山口県地図	大正3年	D	48.2×65.6	1:360,000	村自家55
山口県管内地図	昭和2年	E	55.0×79.4	1:250,000	戦前B2498
山口県管内地図	昭和6年	E	54.8×79.2	1:250,000	地図昭和6-20
山口県管内地図	昭和7年	F	79.4×55.1	1:250,000	明城794
山口県管内地図	昭和9年	F	54.9×79.5	1:250,000	地図昭和9-15
山口県管内地図	昭和10年	E	54.8×79.1	1:250,000	戦前戦後土木108
山口県管内地図	昭和11年	F	55.0×79.0	1:250,000	地図昭和11-10, 同11-11
山口県管内地図	昭和12年	E	54.6×79.2	1:250,000	地図昭和12-10
山口県管内地図	昭和13年	E	55.0×79.0	1:250,000	地図昭和13-11
山口県管内地図	昭和14年	F	55.0×79.5	1:250,000	地図昭和14-4, 同14-5
山口県管内地図	昭和15年	E	54.4×78.5	1:250,000	吉田樟堂文庫2698
山口県管内地図	昭和16年	F	54.4×78.8	1:250,000	地図昭和16-2
山口県管内図	(昭和4~12年)	G①	54.4×69.6	1:250,000	戦前戦後土木108
山口県管内図	(昭和4~12年)	G②	54.4×78.6	1:250,000	地図昭和10年代-1
山口県管内図	(昭和19~22年)	G③	53.4×74.1	1:250,000	地図昭和20年代-1
山口県管内図	(昭和19~22年)	G④	54.5×78.0	1:250,000	地図昭和28-5

2. 出版社等著作

題目	発行年	寸法 cm	縮尺	発行者	請求番号
新町村明細山口県地図	明治26年	48.0×58.1	1:400,000	米谷文照堂	柳井津小田和漢391
大日本管轄分地図山口県管内全図	明治27年	40.3×54.7		清水常太郎	地図明治27-5
山口県新地図 全	明治31年	58.6×53.2	1:350,000	維新堂書店	地図明治32-5
帝国府県地図最新実測山口県	大正11年	39.8×55.6	1:280,000	和楽路屋	柳井津小田和漢390
山口県地図	大正12年	39.8×55.0	1:280,000	駿々堂	地図大正12-17
日本交通分県地図其26山口県	大正15年	54.0×78.5	1:220,000	大阪朝日新聞社	地図大正15-24
日本分県地図最新山口県 山口県地図	昭和12年	54.6×77.8	1:220,000	和楽路屋	明城795
帝国府県地図山口県	昭和14年	39.4×54.8	1:200,000	和楽路屋	佐川家1517

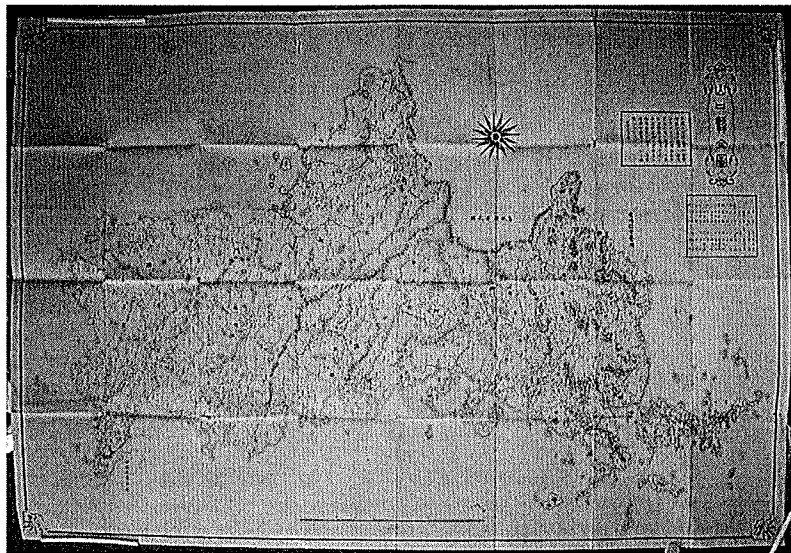
井市街、岩国市街からなっている。

明治十七年、明治二十五年の両図とも、ケバによる起伏の表現が見られる。しかし、明治十七年の図は、全域を空白を残さずに描いているのに対して、明治二十五年の図は、周防、長門、安芸、石見の各国境付近は境界線だけを描き、ケバによる起伏の表現は見られない。

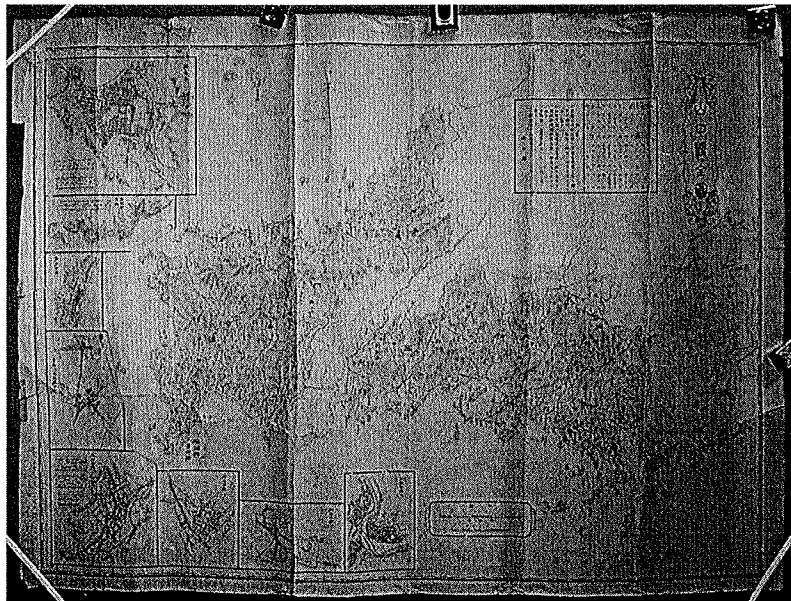
三、明治後期

C型の山口県全図(第3図)は、地図の中に作成年、作成者などを示す記事は見られない。ただし、軸物追加16と同19には、地図の裏側に張り紙がみられ、発行所などが分かる。C型は地図に記載されている地名の分析から、二つのグループに分けられる。①グループは、「室積町」「長府村」の記載が見られる。明治三十八年一月一日に室積村は室積町に、明治四十四年四月一日に長府村は長府町に変更となっており、①の作成時期は明治三十八年一月一日から明治四十四年四月一日までの間と推定される。②グループは、「河山村」「豊田上村」の記載が見られる。明治四十四年七月一日に河波村は河山村に、明治四十五年四月一日に豊田上村は殿居村に変更しており、②の作成時期は明治四十四年七月一日から明治四十五年四月一日までの間と推定される。

山口県文書館が所蔵する地図で、①グループに当たる地図は二点見られ、そのうち請求番号「軸物追加16」は「明治四十一年四月一日印刷」の記載が見られる。この明治四十一年は、村名から推定された作成年代の明治三十八年一月一日から同四十四年四月一日の間に位置している。②グループに当たる地図は四点あり、このうち請求番号「軸物追加19」には「大正三年一月二十日 図」の印が見られる。本図は明治四十四年七月一日から明治四十五年四月一日までの間に作成され、その後、この印が押されたものと考えられる。



第1図 山口県全図 明治17年(明城793)



第2図 山口県全図 明治25年(軸物追加15)

四、大正期

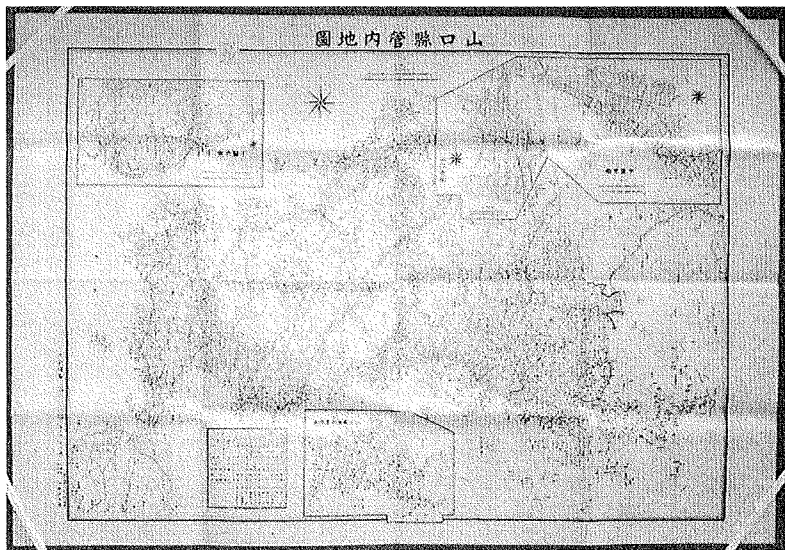
大正期の「山口県地図」(第4図)は、明治期C型に比べて小縮尺の図である。明治期C型が1:180,000であるのに対し、大正期「山口県地図」は1:360,000である。また、大正期「山口県地図」には、明治期C型に掲載されていた市街図は見られない。

大正期「山口県地図」の凡例は、国界、郡市界、町村界、国道、県道、樞要里道、里道、洞道、鉄道、軌道、停車場、山岳、河川、港、大字、市街地、名邑、県庁、郡市役所、警察署、警察分署、監獄署、裁判所、郵便局、旅団司令部、連隊区司令部、兵営、高等商業学校、師範学校、中学校、農業学校、商業学校、商船学校、病院、御陵地、官国幣社、県社、招魂社、公園、温泉、燈台、礁標からなっている。これは明治期C型の内容とは、ほぼ同じであるが、「町村界」「大字」の部分で異なる。この他に、大正期「山口県地図」には、刊行後に書き加えられたものと考えられる「県道見込線」「実地測量線」が見られる。

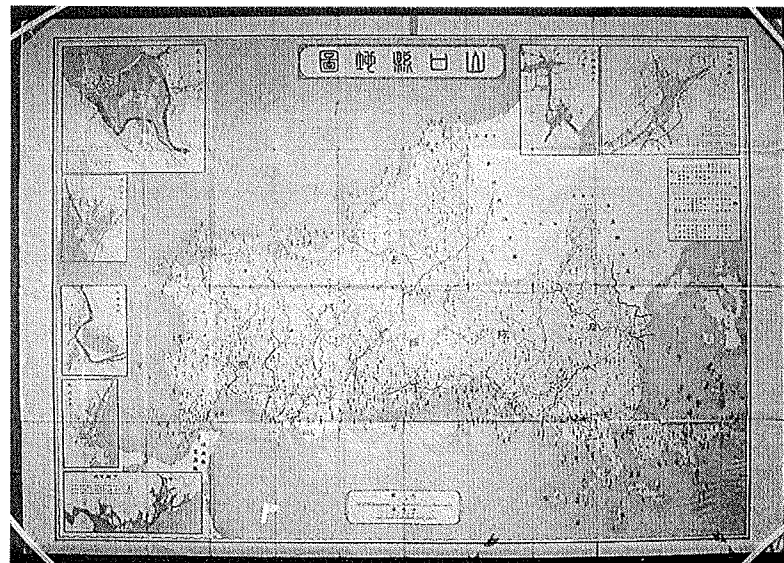
五、昭和初期

昭和初期の山口県全図は、E、F、Gの三系統の図が見られる。このうち、E、F型は山口県全図の内容では同系統である(第5図)。E、F型の違いは、E型は山口県全図の裏側には、何の印刷もされていないが、F型は山口県勢要覧などが掲載されている。

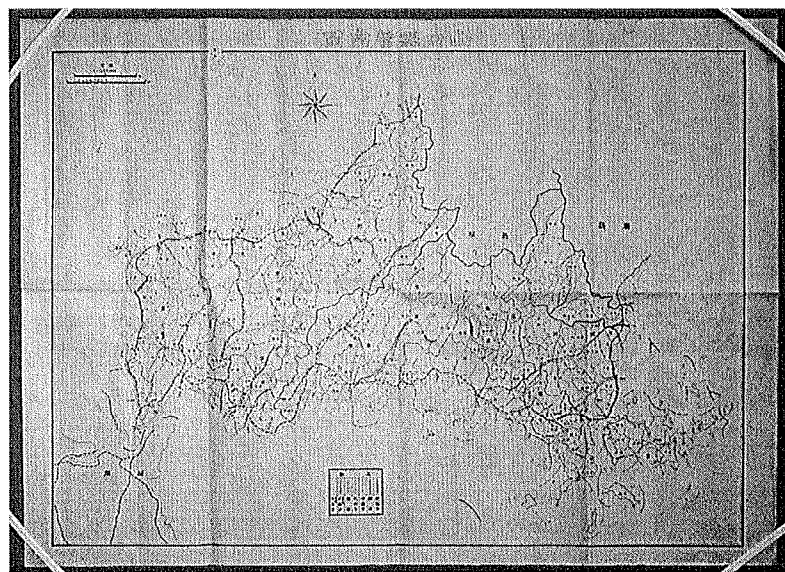
E、F型の山口県全図には、山口県全体の地図の他に、県内各都市の市街図が掲載されている。昭和二年から同十一年の間に刊行された図は字部・山口・下関の各都市と「山口県管内里程図」、昭和十二年から同十五年までの図は、それに加え、防府・萩・徳山の各都市が見られる。その後、昭和十六年刊行の図は「山口県管内里程図」が削除され、



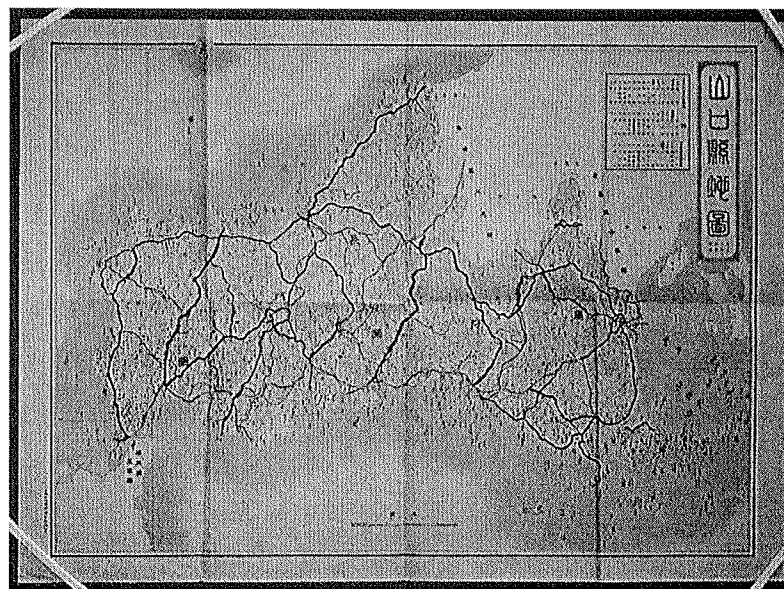
第5図 山口県管内地図 昭和2年(県庁戦前B2498)



第3図 山口県全図 (地図明治44-34)



第6図 山口県管内図 (地図昭和20年代-1)



第4図 山口県全図 大正3年(村上家55)

下関が拡大した図となり、新しく下松が書き加えられている。

E型の山口県勢一覧は、写真が載せられている。昭和七年版は、十八枚、昭和九、十一年版は六枚である。昭和十四年版は写真の掲載は見られない。昭和九年の写真は、①岩国・錦帯橋、②山口・竈山公園、③下関赤間宮、④秋芳洞・傘屋天井、⑤青海島・石門、⑥長門峡・猿溪瀑布である。

E、F型地図のうち、E型の「山口県管内地図」(昭和十五年)には「昭和十五年三月十四日西部防衛司令部許可済」「昭和十五年三月十四日第五師団長許可済」「昭和十五年三月十八日下関要塞司令部許可済」「昭和十五年三月十九日呉鎮守府指令長官許可済」の記事が見られる。F型の「山口県管内地図」(昭和十六年)には、「昭和十六年三月二十七日呉鎮守府指令長官許可済」「昭和十六年三月十八日下関要塞司令部許可済」などの記事がみられる。昭和十二年、日中戦争が始まってから、警察、憲兵隊による取り締まりは厳しくなり、写真撮影、図面もすべて検閲を受ける対象となった⁶⁾。

G型は地名の記載量がE、F型に比べると少なく、市町村名、河川名、山名などに限られる(第6図)。このG型には作成年代等は書かれていない。G型は、G①②とG③④に分けられる。G①②には、厚狭郡藤山村の記載がすでになくなっており、また、長府町は下関市に編入される前で記載が残っている。昭和六年八月一日、藤山村は宇部市に編入しており、また、昭和十二年三月二十六日、長府町は下関市に編入していることから、本図の成立は昭和六年から昭和十二年の間と考えられる。

G③④には、阿知須村の記載が見られない。阿知須町は昭和十九年四月一日、山口市に合併、同二十二年十一月二十三日に分離している。したがって、本図の成立は昭和十九年四月一日から同二十二年十一月二十三日までと考えられる。

G①②③④をさらに細かい部分で比較すると、①②は作成年代は同じ頃であるが、記載内容が異なる。①には凡例が二箇所書かれており、一箇所には「竣功、工事中、未着手、新規要求」、もう一箇所には「府県界、国界、市郡界、町村界、国道、府県道」となっている。②は①の一部と同じ内容がみられ、「府県界、国界、市郡界、町村界、国道、府県道」が記載されている。③④も作成年代は同じ頃であるが、記載内容が異なる。③は凡例に「府県界、国界、市郡界、町村界、国道、指定府県道、其他府県道」が記載されている。④は③に比べて、島名の書き込みが多くなっている。また、道路の路線名(1から199)が余白に記載され、それに対応する道路には番号が付けられている。

おわりに

明治から昭和初期に刊行された山口県全図について整理し、内容について検討した。明治前期は、伊能図を基に内容の異なる二種類の図が作成されていることが分かった。また、明治後期には同一様式の山口県全図が二回刊行されていた。大正期は、一種類の地図が確認された。昭和初期については三系統の地図があり、そのうち二系統は地図の様式は同一であるが、一方の地図には裏に山口県勢が記されているのに対し、もう一方は表の地図だけで、裏は何も記されていない。三つ目の系統は、前者二系統に比べて小型の地図である。昭和の十年代には軍部による検閲が行われたことが、地図に記載されている。

明治二十年代からは全国を対象に三角測量が開始され、二万分の一地形図の作成が行なわれている⁷⁾。明治後期の山

口県全図はそれらからどのような内容を吸収して作成されたかについては、関心のもたれるところである。また、元の地図発行所である、白銀禮治(山口市中市七番地)、桂山陽堂書店(山口市米屋町廿五番地)についても、今後、調査を進めたい。

注

- (1) 三坂圭治(二九八〇)・・・『山口県の歴史』、山川出版、二三三五頁。
- (2) 川村博忠(二九九〇)・・・『国絵図』、吉川弘文館。
- (3) 河村克典(二九九九)・・・『長門周防両国絵図』の記載内容、山口県地方史研究、第八二号。
- (4) 川村博忠(二九八八)・・・『伊能大図』防長両国部分の現存、月刊古地図研究二百号記念論集、『古地図研究』日本地図資料協会、原書房。
- (5) 山口県文書館(一九九六)・・・『行政資料目録三』山口県文書館。梅田正(一九八九)・・・山口県文書館架蔵絵図・地図目録(一)、山口県文書館研究紀要、第十六号、山口県文書館。
- (6) 下関市史編修委員会(一九八三)・・・『下関市史』市制施行の終戦、下関市役所、七八五頁。
- (7) 行政文書、『周防国三角点台帳』(明治二十一年と昭和十年)、『長門国三角点台帳』(明治二十一年と昭和十年)、県庁戦前土木追

- 三、四、測量・地図百年史編集委員会(一九七〇)・・・『測量・地図百年史』、社団法人日本測量協会。国土地理院(一九九九)・・・二十万分の一地勢図、五万分の一地形図の図歴。国土地理院のホームページ(インターネット)を参照した。

資料

山口県著作の山口県全図

※寸法はセンチメートル

表題	寸法、縮尺、請求番号、記事、作成年代他
A 山口県全図	明城73° 一般郷土193° 軸物追加14 (記事)此図ハ伊能忠敬沿海実測図ニ基キ該当ニ漏洩シタルモノハ旧藩政中製スル処ノ精覈ナル見取図數種ヲ採集考定シ尚近時道路ノ変換及ヒ海浜新墾ノ如キハ基実測図ヲ採集シテ以テ調製スルモノナリ 明治十七年三月
B 山口県全図	78.0×105.5' 1:180,000' 軸物追加15 (記事)例言 一本図ハ伊能忠敬ノ沿海実測図ニ基キ国界ヲ略測シ數種ノ地図ヲ採集考定シテ之ヲ製ス 一山岳其他ノ肯定及位置等ハ山口高等中学校教授嘯野廣大郎ノ踏査セシモノニ拠ル 一市街図ハ近時実測セシモノヲ以テ之ヲ載ス 明治二十五年三月 山口県
C-① 山口県地図	75×102.5' 1:180,000' 軸物追加16 (題箋)山口県庁御蔵版 山口県地図 □陽堂発行 (付図)萩市街、赤間関市街、長府市街、宮市及三田尻市街、山口市街、徳山市街、柳井市街、岩国市街

C-① 山口県地図	(題箋)明治四十一年四月一日印刷 明治四十一年四月五日発行 山口県吉敷郡山口町米屋町廿五番地 発行兼発行者 桂梅吉 発行所 桂山陽堂書店 (付図)山口市街、防府市街、萩市街、徳山市街、岩国市街、長府市街、下関市街
C-① 山口県地図	地図の北側部分、破損。縦、測定不能。横、102.8' 軸物追加18 (題箋なし)
C-② 山口県地図	(付図)山口市街、防府市街、萩市街、徳山市街、岩国市街、長府市街、下関市街、24,000分の1。熊毛郡室積町、豊浦郡長府村の記載あり。(明治38.1.1に室積村↓室積町、明治44.4.1に長府村↓長府町) 76.8×108.0' 1:180,000' 地図明治44-34 (題箋なし)
C-② 山口県地図	(付図)山口市街、防府市街、萩市街、徳山市街、岩国市街、長府市街、下関市街。 (作成推定年代)明治44.7.1~45.4.1。玖珂郡河山村、豊浦郡豊田上村の記載。(明治44.7.1に河波村↓河山村、明治45.4.1に豊田上村↓殿居村) クハの色は黒。軸物追加17と同一の印刷。 75.5×101.0' 1:180,000' 軸物追加17 (題箋なし)

明治・大正・昭和初期刊行の山口県全図(河村)

C-②	山口県地図 堂発行 (丸印判)大正三年一月二十日 図 (付図)山口市街、防府市街、萩市街、徳山市街、岩國市街、長府市街、下関市街 (推定作成年代)明治44.7.1~45.4.1。玖珂郡河山村、豊浦郡豊田上村の記載。 ケバの色は黒。軸物追加17。明治44.3.4とは印刷の仕上がり異なる。
C-①	山口県地図 行幸啓。 78.8×106.4 1:180,000 (付図)山口市街、防府市街、萩市街、徳山市街、岩國市街、長府市街、下関市街 (推定作成年代)明治44.7.1~45.4.1。玖珂郡河山村、豊浦郡豊田上村の記載。 ケバの色は茶。
D	48.2×65.6 1:380,000 村上家55

三二四

E	山口県地図 (記事)大正三年四月刻成 山口県印刷所印刷 55.0×79.4 1:250,000 県庁戦前B3498
E	山口県管内 (記事) 昭和二年三月二十五日印刷 昭和二年三月二十七日発行 著作者山口県 印刷兼発行者県管内地図 白銀市太郎 山口県吉敷郡山口町中市七番地 (付図)宇部市街、山口市街、下関市街、山口県管内里程図
E	山口県管内 54.8×79.2 1:250,000 地図昭和6.20 (記事)昭和六年一月三日印刷 昭和六年一月十一日発行 著作者 山口県 印刷兼発行者白銀禮治山口中市七番地 (付図)宇部市街、山口市街、下関市街、山口県管内里程図
E	山口県管内 54.8×79.1 1:250,000 戦前戦後土木108 (記事)昭和十年十月十五日印刷 昭和十年十月二十日発行 発行者 山口県 印刷兼発行者 白銀禮治山口中市七番地 (付図)山口市街、宇部市街、萩市街、下関市街、山口県管内里程図
E	山口県管内 54.6×79.2 1:250,000 地図昭和12.10 (記事)昭和十二年二月十五日印刷

E	山口県管内 郷土192 54.4×78.5 1:250,000 吉田樟堂文庫2698 一般 (記事)昭和十五年四月一日印刷 昭和十五年四月五日発行 著作者山口県 印刷兼発行者 白銀禮治 山口中市七番地 昭和十五年三月十四日西部防衛司令部許可済 昭和十五年三月十八日下関要塞司令部許可済 昭和十五年三月十九日吳鎮守府指令長官許可済 (付図)山口市街、宇部市街、萩市街、徳山市街、下関市街、防府市街、山口県管内里程図
E	山口県管内 13-12 55.0×79.0 1:250,000 地図昭和13.11 地図昭和二十日発行 著作者 山口県 印刷兼発行者 白銀禮治 山口中市七番地 (付図)山口市街、宇部市街、萩市街、徳山市街、下関市街、防府市街、山口県管内里程図
E	山口県管内 郷土192 54.4×78.5 1:250,000 吉田樟堂文庫2698 一般 (記事)昭和十五年四月一日印刷 昭和十五年四月五日発行 著作者山口県 印刷兼発行者 白銀禮治 山口中市七番地 昭和十五年三月十四日西部防衛司令部許可済 昭和十五年三月十八日下関要塞司令部許可済 昭和十五年三月十九日吳鎮守府指令長官許可済 (付図)山口市街、宇部市街、萩市街、徳山市街、下関市街、防府市街、山口県管内里程図

F	山口県管内 (記事)昭和七年六月三日印刷 昭和七年六月十一日発行 著作者山口県 印刷兼発行者 山口中市七番地 白銀禮治 (付図)宇部市街、山口市街、下関市街、山口県管内里程図(地図の裏)山口県案内 写真2枚
F	山口県管内 54.9×79.5 1:250,000 地図昭和15 (記事)昭和九年五月十日印刷 昭和九年五月十五日発行 著作者 山口県知事官房 印刷兼発行者 山口中市七番地 白銀禮治 (付図)宇部市街、山口市街、下関市街、萩市街、山口県管内里程図
F	山口県管内 55.0×79.0 1:250,000 地図昭和11.10 地図昭和11-11 (記事)昭和十一年六月十五日印刷 昭和十一年六月二十日発行 著作者 山口県総務部統計課 印刷兼発行者 白銀禮治 山口中市七番地 (付図)宇部市街、萩市街、下関市街、山口県管内里程図(地図の裏)山口県勢一覽 写真6枚
F	山口県管内 55.0×79.5 250,000 地図昭和14.4 地図昭和14.5 (記事)昭和十四年十月二十日印刷 昭和十四年十月

地図	<p>廿五日発行 著作者 山口県 印刷兼発行者 白銀 禮治 山口市中市七番地</p> <p>昭和十四年六月二十九日呉鎮守府司令長官許可済</p> <p>昭和十四年六月二十九日第五師團長許可済</p> <p>昭和十四年七月三日下関要塞司令部許可済</p> <p>昭和十四年七月十五日呉鎮守府司令長官許可済</p> <p>昭和十四年七月十七日西部防衛司令部許可済</p> <p>(付図) 山口市街、宇部市街、萩市街、徳山市街、下関市街、防府市街、山口県管内里程図</p> <p>(地図の裏) 山口県案内 写真15枚</p>
F	<p>54.4×78.8' 250,000' 地図昭和16-2</p> <p>(記事) 昭和十六年九月二十日印刷 昭和十六年九月廿五日発行 著作者 山口県総務部統計課 印刷兼発行者 日東印刷合名会社 代表者掃部嘉蔵 大阪市東区川西町四四五 昭和十六年三月二十七日呉鎮守府司令長官許可済 昭和十六年六月十八日下関要塞指令部許可済</p> <p>(付図) 山口市街、宇部市街、萩市街、徳山市街、下関市街、下松市街、防府市街</p> <p>(地図の裏) 山口県勢一覽</p>
G-①	<p>54.4×69.6' 1:250,000' 戦前戦後土木108</p> <p>(他に記載なし)</p>

図	<p>※作成年代は昭和8年8月1日と昭和15年6月8日。藤山村の記載なし、長府町の記載あり。昭和8年8月1日、藤山村は宇部市に編入。昭和15年6月8日、長府町は下関市に編入。</p>
G-②	<p>54.4×78.6' 1:250,000' 地図昭和10年代-1</p> <p>(他に記載なし)</p> <p>(推定作成年代) 昭和8年8月1日と昭和15年6月8日。藤山村の記載なし、長府町の記載あり。昭和8年8月1日、藤山村は宇部市に編入。昭和15年6月8日、長府町は下関市に編入。</p>
G-③	<p>53.4×74.1' 1:250,000' 地図昭和20年代-1</p> <p>(他に記載なし)</p> <p>(推定作成年代) 昭和9年4月1日と昭和12年12月3日。阿知須町の記載なし。阿知須町は昭和15年4月1日、山口市に合併。昭和12年12月3日、分離。地図に手書きで「昭和二十八年四月」、封筒に手書きで「山口県管内道路網図 二八・四山口県土木部」。昭和19年4</p>
G-④	<p>54.5×78.0' 1:250,000' 地図昭和28-5</p> <p>(他に記載なし)</p> <p>(推定作成年代) 昭和19年4月1日と昭和12年12月3日。阿知須町の記載なし。阿知須町は昭和15年4月1日、山口市に合併。昭和12年12月3日、分離。地図に手書きで「昭和二十八年四月」、封筒に手書きで「山口県管内道路網図 二八・四山口県土木部」。昭和19年4</p>

月1日と昭和22年12月3日に作成された図に書き加えられている。

出版社等著作の山口県全図

新町村明細	<p>58.0×88.1' 1:400,000' 柳井津小田和漢391</p> <p>(記事) 明治廿六年八月一日印刷 同八月十日発行</p>
山口県地図	<p>定価金十三銭五厘 発行者 山口県玖珂郡岩国町四百九十三番地 米谷判藏 編纂者 同県同郡同町四百九十三番地 足立荒人 印刷者 同県同郡同町千百三十八番地 蔵野岩吉 発売所 同県同郡同町本町二丁目 米谷文照堂 大売捌 同県山口市中町 育英堂</p> <p>(付図) 山口町略図、萩町略図、赤間関市略図、岩国町及近傍略図、日本図ニ於ケル山口県ノ位置</p>
大日本管轄	<p>40.3×54.7' 地図明治27-5</p> <p>(記事) 明治廿七年三月一日印刷 同年五月五日発行</p>
分地図山口	<p>編纂者 京都市上京区室町通上立売上ル室町頭町四十六番戸 清水常太郎 発行者 大阪市南区末吉橋通四丁目八十九番邸 中村芳松 印刷者 大阪市南区口堂寺町四丁目二百七番地邸 中田貞矩</p>
新市町村名	<p>区口堂寺町四丁目二百七番地邸 中田貞矩</p>
山口県新地	<p>58.6×53.2' 1:350,000' 地図明治32-5</p> <p>(記事) 維新堂書店 版權所有 明治三十一年十月一日</p>

帝國府県地図最新実測	<p>39.0×55.6' 1:280,000' 柳井津小田和漢390</p> <p>(記事) 著作印刷兼発行者 大阪市西区新町通三丁目百五十九番屋敷 日下伊兵衛 発行所 大阪市西区新町通三丁目角 和楽路屋 大正十一年一月五日印刷 大正十一年一月十日 発行</p> <p>(付図) 下関市 (地図の裏) 山口県地誌</p>
山口県地図	<p>39.8×55.0' 1:280,000' 地図大正12-17</p> <p>(記事) 大正十二年四月二十日印刷 大正十二年四月二十五日再版 編輯兼発行者 大淵善吉 大阪市南区末吉橋通四丁目四番地 発行所 駈々堂旅行案内 部 大阪市心齋橋北詰</p> <p>(地図の裏) 山口県名勝地誌</p>
日本交通分	<p>54.0×78.5' 1:220,000' 地図大正15-24' 明城792</p> <p>(記事) 東宮御成婚記念 大正十五年五月十日発行 大阪朝日日新聞社 第巻万五千四百三拾三号付録</p>

日本分県地	精版印刷株式会社印刷 下関要塞司令部認可
図最新山口	54.6×77.8' 1:220,000' 明城795
県 山口県	(記事)昭和十二年五月十日印刷 昭和十二年五月十五日発行 著作印刷兼発行者 日下伊衛 大阪市西区新町通三丁目二十番地 発行所 和楽路屋 大阪市西区新町通三丁目 印刷所 精版印刷株式会社 大阪市西淀川区海老江上四丁目二三 昭和十一年二月十四日 下関要塞司令部検査済
地図	(付図)山口市街、徳山市街、宇部市街、萩市街 (地図の裏)山口県地誌
帝国府県地	39.4×54.8' 1:200,000' 佐川家1517
図山口県	(記事)昭和十四年二月二十日 印刷 昭和十四年二月廿五日 発行 著作印刷兼発行所 大阪市西区新町通三丁目二十番地 和楽路屋 日下伊兵衛 和楽路屋編纂 大阪和楽路屋発行 昭和八年十一月廿七日 下関要塞司令部検査済 昭和十三年四月五日 呉鎮守府検査済
	(付図)なし (裏)山口県地誌